

「ふるさと垂水を愛し、誇りにする子ども」の育成をめざして 令和2年度鹿児島学習定着度調査結果

1 はじめに

令和2年度における垂水市の児童生徒の調査結果の概要とその分析、また、これからの取組を公表いたします。本公表が目指すところは、保護者や地域の方々のご理解とご協力をいただき、子どもたちの学習状況の改善を図っていくことです。また、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、今後、調査結果を活用した改善方策の実施に取り組んでまいります。

2 調査の内容

(1) 学力調査〔国語、社会、算数・数学、理科、英語（中学1、2年生のみ）〕

主として「基礎・基本」に関する内容と、主として「思考・表現」に関する内容で出題し、調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査しました。調査対象教科は以下のとおりです。

【小学校】第5学年 … 国語、社会、算数、理科

【中学校】第1、2学年 … 国語、社会、数学、理科、英語

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

ア 児童生徒に関する調査…学習に対する意識や学び方などの学習状況に関する調査

イ 学校に対する調査…学力向上の取組、校内研修の状況、家庭・地域との連携等に関する調査

3 各教科等の結果



4 調査結果

- 小学5年生は、全教科で県平均を下回っていますが、国語は県平均との差は僅かです。
- 中学1年生は、4教科で県平均を下回っていますが、英語は県平均を上回っています。
- 中学2年生は、全教科で県平均を下回っていますが、社会・理科は県平均との差は僅かです。

5 質問紙調査結果

- 小学5年生では、自分たちで考えたり話し合ったりする授業に対し、とてもやりがいを感じる児童の割合が高くなっています。
- 中学1年生・2年生では、自分たちで調べて、課題を解決する授業に対し、とてもやりがいを感じる生徒の割合が高くなっています。

6 今後の重点的な取組事項

- 主体的・対話的で深い学びを実現するとともに、子どもたち一人ひとりが「分かる・できる」喜びや達成感を味わうことができるよう「垂水市授業モデル」に基づいた授業改善を推進します。
- 国語科を中核とし、他の教科や、さまざまな教育活動を通して子どもたちが思考したり、話し合ったりする時間を確保し、言語活動の充実に努めます。
- 個に応じた指導や補充指導を充実させ、当該学年の基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力など育むべき力の確実な定着を目指します。
- GIGAスクール構想による一人1台端末の活用により、個別の学習状況を的確に把握し、一人一人の理解度に応じたきめ細やかな指導を行う、いわゆる個別最適化された学習活動の展開に努めます。
- 学校と家庭での学習が連動するよう「垂水タイム」の確実な実施を、より一層推進します。